



ほりいけ まさお

堀池 雅夫 氏

生年月日 昭和26年10月10日生

住 所 田辺市文里一丁目

昭和 26 年、静岡県清水市（現：静岡市）に生まれる。35 歳の時に田辺市に移住し、妻の実家の製煤業を継ぐ。当初は鉱物性油煙を製造していたが、知人の墨屋から懇願され、松の煤（松煙）の製造を始める。

時代の流れとともに筆記用具が変化する中、固形墨の需要の減少により、原料となる煤が売れなくなっていったことから、氏は決意し自ら製造した松煙を用いて松煙墨の製作を始めることとなる。

松煙墨は、松煙と膠を合わせて作る墨であり、奈良時代にはすでに日本で製作されていた。特に紀州松煙墨は、平安時代、熊野詣に訪れた上皇に献上された名墨である。その原料となる松煙の製造は、山村の貴重な現金収入であり、かつて紀州の山々には多くの「煙屋」がいたが、昭和 30 年代になり、製煤業の過酷さや松材の減少、価格の安い墨の普及により、紀州松煙墨は途絶えていった。その松煙墨の製作を復活させたのが堀池氏である。

古来、松煙は障子で囲った小部屋に焚窯を設置し、松材を燃やして障子に煤を附着させて採取してきた。氏は障子の代わりに金網を用いつつ、他は全て自身の調査により復元した伝統的な製煤方法を踏襲し製造する。アカマツを 10 年以上置いておくと周りの部分は白く腐って、油の多い赤みがかかった部分だけになり、それを小割にして、小さな炎でゆっくり約 2 週間をかけて煤を作っていく。500kg の松材を 12 部屋ある小部屋を順次回りながら、繰り返し燃やして、部屋中にびっしりとこびりつく黒い煤、これが原料となる松煙で、ようやく 10kg の煤が取れるという大変な作業である。集めた煤に膠を少しずつ加えながら丁寧に練りこみ、それを型に入れ、灰の中で乾燥させて墨に仕上げるまで半年以上を要する貴重な墨が松煙墨であり、製煤から松煙墨の製作までの行程を一貫して行う職人は全国で氏ただ一人である。

松煙墨は何と言っても、その美しい滲みと青みを帯びた黒い色にあり、書道家だけではなく芸術家にも愛用者が多くおり、氏の松煙墨は、独特のにじみと黒の色彩が高く評価され、平成 27 年には岐阜県から「清流の国・森の恵み大賞優秀賞」を、また、令和 4 年には和歌山県名匠表彰を受賞している。

第 54 回 (令和 5 年)

このほか、氏が煤に種々の顔料を加えて膠に練り込み、鮮やかな色を付けた墨を創案し、「彩煙墨」と名付けたその墨は、淡く繊細な色彩で多くの人々に愛用されている。

紀州松煙墨製作の復活は言うまでもなく、彩煙墨の創案など伝統を守りながらも新たな取組に挑戦するとともに、現在もただ一人、墨の製作と向き合い、墨の良さを伝えることで、郷土が誇る紀州松煙墨を未来に残そうと、日々尽力してきた氏の功績は誠に多大である。

(略 歴)

昭和26年 静岡県清水市（現：静岡市）生まれ
昭和62年 田辺市に転入

(主な活動等)

昭和62年 田辺市に移住、妻の実家の製煤業を継ぐ
平成4年ごろ 田辺市鮎川に工房「紀州松煙」を構える
その後、40年ほど途絶えていた紀州松煙墨の製作を開始
平成10年 墨に顔料を混ぜて色を付けた彩煙墨を開発

(役職等)

昭和62年～ 紀州松煙代表

(受賞歴)

平成16年 きのくに技能奨励賞（和歌山県）
平成27年 清流の国・森の恵み大賞 森の恵み部門 優秀賞（岐阜県）
令和4年 和歌山県名匠表彰（和歌山県）